

ユーザー探訪

仲間とのコミュニケーション強化で安全な職場風土づくり
～自己学習から安全運転の極意に気付く～

第3回NASVA 安全マネジメントセミナーでの講演の様子
(2008年11月25日(火) in国際フォーラム)

事故防止の決め手! セイフティレコーダ

アサヒロジスティクス株式会社

安全品質管理部 部長 下田 哲雄 様にインタビュー



会社概要

アサヒロジスティクス株式会社

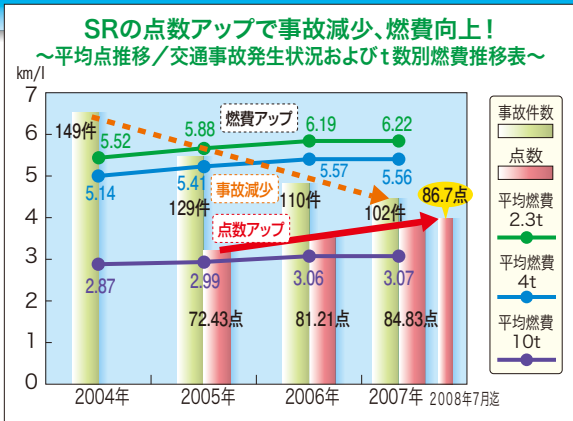
本社所在地: 埼玉県比企郡嵐山町花見台7-1
TEL.0493-62-1211(代) FAX.0493-62-6699
営業拠点: 関東圏 物流センター 11拠点、営業所 7拠点
設立: 1945年10月
代表者: 代表取締役会長 横塚 正秋
代表取締役社長 小川 修
事業内容: スーパーマーケット、外食産業、CVSを主な荷主として、完全受託型の食物流の輸送
従業員数: 1,013名(平成20年3月末現在)
車両台数: 544台(平成20年3月末現在)
SR導入: 2004年12月 SRcommを全車両に導入
安全・温度管理に活用(一部映像も導入)
2006年11月 SRVideoも全車両に併設
映像による取り組みも開始

企業のコンプライアンスが求められる時代。「いつ何が起るかわからない」という意識を持ち続け、未然に安全を妨害する芽を摘むセルフチェック体制を作りあげてきた。内部監査の視点を持ち、コンプライアンスを遵守する姿勢を貫くこと。自ら意識しなければ明日はないという気持ちで、気概をもって安全運転とその体制づくりに取り組んでいる。運輸安全マネジメント施策もホームページに情報を公開。方針とともに、目標、具体的な対策、計画や組織体制も明確に打ち出している。



1 SR導入の効果

- 1. 事故削減**
・2004年度149件 ⇒ 2007年度102件に
- 2. 燃費向上!**
・2004年度と比較すると8%以上の向上
・SR導入で燃料費10%の削減
(SR導入費用を2年余りで回収!)
- 3. 「アサヒロジスティクス」の品質、大幅向上!**
・教育効果により、会社の品質証明である
ドライバー品質が向上



2 SR導入の経緯 ～なぜ事故防止にSRなのか～

20年以上前から

全車両に運行記録計(アナログタコグラフ)を導入

2002年頃

荷主様からの要請で、約2000台のデジタルタコグラフ導入

●疑問

出てくる結果は、どれも、ほぼ満点。「安全な運転です」という分析結果でも、事故は減らない...なぜ?

↓
全車へのデジタルタコグラフの導入をためらう

2004年7月

セイフティレコーダ5台をテスト導入

記録計3機種を同時搭載した優秀なドライバーの運転診断結果

記録計	運行結果
アナログタコグラフ	模範的
デジタルタコグラフ	90.5点「安全な運転です」
セイフティレコーダ(SR)	20点「非常に危険な運転」ヒストグラムからも荒い運転傾向が読み取れた

この差は何?!

- ジャイロセンサー搭載
- 日常運転を診断するデータの充実



全車両にSR導入を決定!

3 SRを導入しての反応

SR導入にあたっては、経営者・運行管理者・ドライバーそれぞれの役割から思いや不満もありました。導入当初は、『車種』『道路環境』などによって不利・有利がある」とドライバーから言われ、配慮しなければいけないのでは？という意見が出たことも。

そこで、運行管理者にSR活用に関する理論武装を推進し、ドライバーからの様々な問いかけに応える体制を構築。会社ぐるみでドライバーを応援していくことでやる気を引き出しました。

その成果が実り、思った以上に平均点アップを実現。さらに、映像を活用することで、ドライバーとの対話がより明確になり、理解を得ることができました。ドライバーも運行管理者も安全運転に自信を持って、今日に至っています。

1. 経営者の反応

創業者の思い「ドライバーの地位向上」
現会長の思い「ドライバーにプライドを持たせる」

SRの点数で何かできないか？

2. ドライバーの反応

SRを煙たがり不満続出
「あおられる」「割り込まれる」「クラクションを鳴らされる」「怒鳴られる」
「運転席から降りてきてまで、文句を言われる」等の言い訳

SRのプレッシャーから逃げようとする気持ちが表れている

3. 運行管理者の対応

- ①SR導入に際し、説明会を何度も開催。
 - ・ドライバーへの動機付け（SRはドライバーの安全を守るために導入する・運転のクセを取り除く道具として活用すること）
 - ・繰り返しSRキャンペーンを行い、平均点アップを図る
- ②ライセンス研修を実施
目的：ドライバーへの動機付けをバックアップ

ドライバーのSRのプレッシャーを取り除く工夫を行う

さらにSRVideo導入で、映像を見ながらドライバーと明快に対話できるようになる

Episode

SRへの取り組み ～滑川営業所収乳車ドライバーの例～



あきらめない継続した直接対話で、ドライバーを“気付き”へと導く

原乳を運ぶ収乳車担当の40年ベテランドライバー。SR導入当初の点数は、20～40点。「牛乳がチャップチャップ揺れる」「農家の軒先は、ガタ道、ぬかるみだよ」「狭い道をバックで入っていかないといけない」と点数が上がらない理由をあげてきます。会社としては、事故防止のため、すべてのドライバーに点数を上げる努力を求めます。特に彼は営業所のキーマン。平均点上昇のために、やる気になってもらねばなりません。担当業務における不利な面や、難しさも受け止め、繰り返し「点数を上げるためには、どうしたらいいだろうか？」と、直接話をし続けました。評価方法にも工夫。はじめはドライバーの気持ちも汲み取り、特別ボーナス点を追加し、その中で1点でも得点を上げていく

ところからスタート。点数の変化率や、チームの総点数で競わせたりしたことも。根気強く対話を繰り返し、2007年にはボーナス点が無くても50点まで上昇。2008年10月現在は、なんと平均86点になりました。きっかけは昨年この会話。「何も無理なことはしなくてもいいんだよ。60点にするためには、どうしたらいいだろうか？」「わかった！まかせておけ」いきなり80点をめざせといってもやらない。プライドをくすぐられ、60点なら簡単だと思えるのです。ドライバーが自分自身で“気付き”を持ったとき、大きな変化があります。彼に触発され、営業所内のドライバーも奮起。営業所の平均点数が、最大86点まで向上しました。

4 褒賞制度

プロドライバーという職種に誇りをもってもらうためにどうしたらよいか？人は誰でも褒められたら嬉しいもの。努力が称えられる「金・銀・銅」メダル。これを持ち帰れば、家族からも誇りに思ってもらえるに違いない、と当社は考えました。家族の喜びが、ドライバーの喜びであり、大きな支えになります。

当社では、無事故によって経費削減できた利益は、ドライバーに還元すると宣言し、イベントを数多く開催しています。研修や、チーム活動の活発化に伴い、イベント内容も娯楽要素の濃いものから、日々積極的に取り組んでいるチーム活動の結果発表の場へと変化しています。

1月開催の『安全初夢大会』は、最大イベント。ドライバーの努力に対して、会社が様々な仕掛けを用意して称えます。ドライバーのモチベーションが高まるだけでなく、その年のやる気にもつながります。これは、安全や省燃費運転に具体的な効果をもたらし、会社にとっても経費削減、荷主からの信頼など、あらゆる好循環を生み出しています。

【アサヒロジスティクスの褒賞制度】

ドライバーコンテスト 毎年5月 第3日曜日定例



2008年は各拠点から48名の優良ドライバーが集まった

安全の集い 毎年7月 第2土曜日

ドライバー主体のイベント、チーム活動を含めた発表。賞品、表彰あり

安全初夢大会 毎年1月

家族も参加できるイベントで、表彰。賞品もあり。

2009年実績

- 1等賞品 トヨタ ヴィッツ
- 2等賞品 37型液晶テレビ 他多数



安全初夢大会 賞品の車を囲んで

ベストドライバー表彰 1期(3ヶ月)ごとに表彰

年間(4期通算)ベストドライバー選出

5 安全教育の中でSRを活用 ～社内ライセンス制度設立！～

社内の運転業務を担当するには、『アサヒセイフティライセンス』を必要とする制度を設けています。

2004年より、安全意識向上を目的として、SR点数アップのためのセイフティライセンス研修を行ってきました。2008年2月からは第2ステップとして『運行品質訓練』を実施。運行管理者、ドライバー、それぞれに向けた内容で、指導者と受講者との双方向のコミュニケーションによって行われるチーム活動になっています。

たとえば、運行管理者研修の場合。当社を『アサヒプロダクション』と呼び、ドライバーを有能なタレント、そのマネージャーが運行管理者であると想定して進めています。タレントを上手に生かすのがマネージャー。ドライバーが体害するも、事故を起こすも、マネージャーである運行管理者の責任であると説くのです。

19	茨城	飯島雄一	99.33	
20	吉見	宮崎直哉	99.30	
21	長沼	横尾陽介	99.28	
22	長沼	守屋憲司	99.28	
23	V4達成！おめでとうございます			96
24		相馬 銀次	99.20	
25	越谷	宮本亮	99.20	
26	加須	福地 正雄	99.19	
27	船橋	江戸 大輔	99.10	
28	茨城	稲石 蔵人	99.06	

越谷営業所掲示板より
運行管理者の工夫が光る「SRランキング表」の一言

2004年11月 第1次セイフティライセンス制度 導入

安全運転講座を受講

- ◎レポート ○実車点検
- ◎面接 ○筆記試験

<受講資格>

- ・SR点数 (SR平均ランキング制度より)
- 3級：60点以上
- 2級：70点以上
- 1級：80点以上

<実績>

サービスドライバー 649名 (全員終了)

2008年2月 第2次セイフティライセンス (運行品質向上訓練) 制度導入

設定したテーマに基づき半年間活動。

グループ討議を経て、成果をまとめ、発表を行う

1チーム6～7人で構成

<受講資格>

- 1年以上の勤続者
- SR点数 85点以上

<実績>

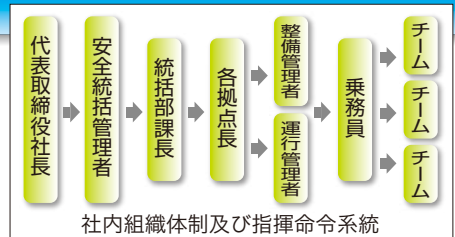
ドライバー編 受講者実績：577名
マネージャー編 受講者実績：118名



小集団グループで討議し、発表を行う
(安全の集いより)

6 自主的で活発なチーム活動

1年間を通じて、ドライバー6～7人で一つのチームを結成し、チーム活動をしています。荷主さんの協力などもあり品質管理活動の土壌がある営業所を筆頭に、様々な視点からとらえた幅広いテーマ設定や活動による結果を生み出しています。チーム活動から、現場でどのようにSRの点数や映像などを使っていけばよいか、自主的にコミュニケーションを図り、取り組めるようになったことが大きな成果です。



『チームT-007』茨城営業所の例 業務内容：各店舗への配送

1) テーマ 「運転技術向上～プロドライバーへの道～」

2) 現状把握 (SRの運転診断結果より)

◆点数傾向・・・次の3項目の点数が特に悪い

(対策の検討と実施項目)

- ①ハンドル → 走行中の車線変更、店舗への入出時と右左折する際の丁寧なハンドル操作が重要
- ②ブレーキ → 十分な車間距離で走行する
周囲への視野を広くし、危険予測する
十分な減速を行い、交差点などはすぐに停まれる速度で走行する
- ③スムーズ → 店舗で駐車するまでと、店舗に出入りする際の流れが、1日を通じて総合的に安定していたかが重要

3) 班ミーティングでの取り組み (KYTの実施)

◆傾向分析・・・(傾向) ハンドル・停止の評価が悪い

SRVideoで撮影された映像を確認⇒どのような危険に出くわす可能性があるか意識が弱い

<対策>走行中、店舗駐車場、バック時の防衛運転強化

4) 結果

(2007年4月
～2008年2月
の推移)

取り組み前 (4月～8月)
SR平均点 75点

配送トラブル 5件
無事故日数 510日



活動後 (9月～2月)
SR平均点 90点

配送トラブル 2件
無事故日数 700日継続中
(08年2月29日現在)



7 新しい展開に向けて

事故を一つ起こしたとき、100-1=0(ゼロ)か、あるいはマイナスになってしまいます。効率のよい運転は、コスト削減に寄与するだけでなく、安全にも通じ、さらに経営にも大きく関係します。事故を起こさないためには、会社が安全を一番に考える「職場風土」を整え、仲間と何でも話し合える雰囲気を作ること。その

ことによって、ドライバーが日常の運転について自分でチェックし、安全運転の極意に気付き、「プロドライバー」としての誇りも生まれていきます。今後も、チーム活動をさらに充実させて、より安全・環境対策を進めてまいります。

アサヒロジスティクスさんならではのSR運用の極意を教えてください！

下田部長にインタビュー

Q1 うまくSRを運用するコツは何？



褒めること！人間は誰だって褒められたい。成果をみたいし、評価されたい。その願望は年齢に関係がありません。ちょっとでも点数が上がったときに、褒める。「褒める」ということは、期待していたことに対して、結果を出してくれた愛情が言葉になったもの。タイミングを逃してはダメ。よかったときには、必ず褒める。これが何よりも重要。ただ、口先だけで褒めても、効果はありません。“操り”は見抜かれます。自分のことをいつも気にかけて思ってくれているという人間関係が必要です。この関係を築き上げること。そのプロセスこそが、重要なのです。

SRの診断結果は、いわば、日常運転のレントゲン。自分の運転の姿（＝現実）を見せつけられるから避けたいという心理が働きます。ですから、結果が悪い時にちゃんと声をかけることも大事。その気持ちを奮い立たせるために必要なのは、仲間の存在。一緒に見てくれる仲間がいれば、向き合える。この関係を築き上げるための仕掛けを、会社としては、考えています。

Q2 印象に残っているエピソードは？

新導入当初、「交差点でこんなノロノロ運転では怒鳴られる」などとドライバーから不満を言われてきましたが、「交差点で一時的停止を規則として守っているヤマト運輸さんなどは、他の車から怒鳴られたりしていますか？あなたの運転にも問題があるのでは？」と投げかけました。すると、不満はびたりと止まりました。結局は、SRを使いたくない言い訳にしか過ぎないのです。会社全体でも、安全運転を最優先に！と決めて取り組んできました。現在では、荷主様から「道行くお客様から“道をゆずってもらった。安全運転ありがとう”とお礼の電話が入った」など、嬉しいお言葉をいただくまでになっています。

Q3 研修や教育をするうえで大事なことは何？

絶対に、あきらめないこと。人間は改善できる。当社では、“人生とは何か”というところに教育のスタートがあります。“生き方”を問う内容に、「今まで学校教育でも受けたことがない」と社員は口々に言います。大切なものは、家庭であり個人。仕事も大切。仕事は、仲間あってのもの。仲間と愛情ある人間関係を作ること大切にしています。

株式会社 データ・テック

SR定期セミナーを開催しています！

当社では、アフターフォローの一環として、SR 定期セミナーを開催しております。SR を導入してくださったお客様を中心に、SR の操作方法から点数を基に、どのようにドライバーと話をしたらよいかなど、参加者同士で意見交換が行われます。体験に基づくアドバイスも数多くいただいています。



九州地区セミナーの様子

スケジュール (2009年2月～6月) 参加には、**事前申込みが必要**です。

東京セミナー

会場：データ・テック本社
(東京都大田区蒲田)
会期：2009年4月17日(金)
6月19日(金)

大阪セミナー

会場：ウエルシティ大阪 厚生年金会館
(大阪府大阪市西区)
会期：2009年2月20日(金)
6月12日(金)



東京セミナーの様子

【お問い合わせ先】 株式会社 データ・テック 広報まで
TEL 03-5703-7060

*イベント日程、会場等は都合により変更する場合があります。変更になる場合は事前にご連絡いたします。

株式会社 データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-8-7 K-1ビル8F
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
<http://www.datatec.co.jp>